

Power Cache Office

共有フォルダのOfficeファイルが、重くてなかなか開けなかった経験はありませんか？

やっとの思いで開いたファイルが、使用中で更新できなかったことは？

検索に時間がかかり、探しているファイルが見つからなかったことは？

「Power Cache Office」はこれらの問題を解決します。

- リモートのOfficeファイルを開くと、自動でローカルにコピーを作成します。
 - ローカルPCにあるファイルとして、軽快に操作することができます。
 - 検索も高速に実行できます。
 - リモートのファイルをロックしないため、他の人との共同作業を邪魔しません。
- ローカルのコピーを更新すると、自動でリモートへアップロードします。
 - リモートのタイムスタンプが変わっていた場合、差分を確認してからアップロードすることもできます。

画面構成

以下が「Power Cache Office」の画面構成です。

各機能の使い方を説明していきます。

Power Cache Office

関連付け

☒ Excel ファイル (xls, xlsx, xlsxm) を関連付ける

☒ Word ファイル (doc, docx, docm) を関連付ける

☒ PowerPoint ファイル (ppt, pptx, pptm) を関連付ける

キャッシュ対象フォルダ

追加した文字列から始まるパスはキャッシュが作成されます。 例: Z:¥, ¥¥192.168.0.100

+

ホットキー

Alt + R

クリップボードのパスを開く

Alt + Shift + R

最近開いたファイルを表示

最近開いたファイルを表示

インデックスを再作成

キャッシュを削除

キーワード:

キャッシュフォルダを検索

対象フォルダ:

キャッシュを事前作成

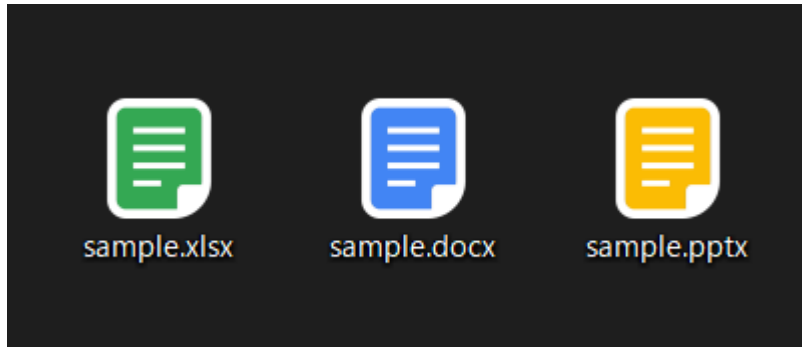
関連付け

チェックを入れた拡張子が「Power Cache Office」で開くように関連付けを行います。
特に理由がなければ、すべてチェックを入れてください。

チェックを入れるとOfficeファイルを開く際「常に使う」アプリに「Power Cache Office」が選択可能になります。

常に使うアプリに設定し、アイコンが変更されれば完了です。

うまくいかない場合は、PCを一度再起動してみてください。



キャッシュ対象フォルダ

キャッシュ作成する（ローカルPCにコピーを作成する）フォルダを指定します。
共有フォルダや、外付けハードディスクのパスを指定してください。

テキストボックスにパスを入力し「+」ボタンを押すと追加されます。
追加したパスを削除する場合、選択して「Delete」キーを押してください。

ホットキー

以下の機能をホットキーに登録します。

- クリップボードのパスを開く
 - クリップボードにパスがコピーされている場合、そのパスを開きます。
- 最近開いたファイルを表示
 - 本アプリで最近開いたファイルを表示します。
表示されたファイルを開いたり、パスをコピーすることができます。

ホットキーを変更するには、テキストボックス上で登録したいキーを押してください。

最近開いたファイルを表示

ホットキーの「最近開いたファイルを表示」と同じ機能です。

インデックスを再作成

ローカルのコピーとリモートの関係を再作成します。
リモートのOfficeファイルが、うまく開けなくなった場合に実施してください。

キャッシュを削除

ローカルのコピーをすべて削除します。
インデックスを再作成しても、リモートのOfficeファイルがうまく開けない場合や、PCの容量が不足した場合に実施してください。

キャッシュフォルダを検索

キーワードを入力してボタンを押すと、ローカルのコピーを対象に検索を実施します。

キャッシュを事前作成

対象フォルダを入力してボタンを押すと、フォルダにあるOfficeファイルをローカルにコピーします。
以下の2点に注意して実施してください。

- 処理に時間がかかる可能性があります。
- 大量のファイルをキャッシュすると、PCの容量が不足する可能性があります。

インストール

[PowerCacheOfficeSetup.msi](#) を実行してインストールします。

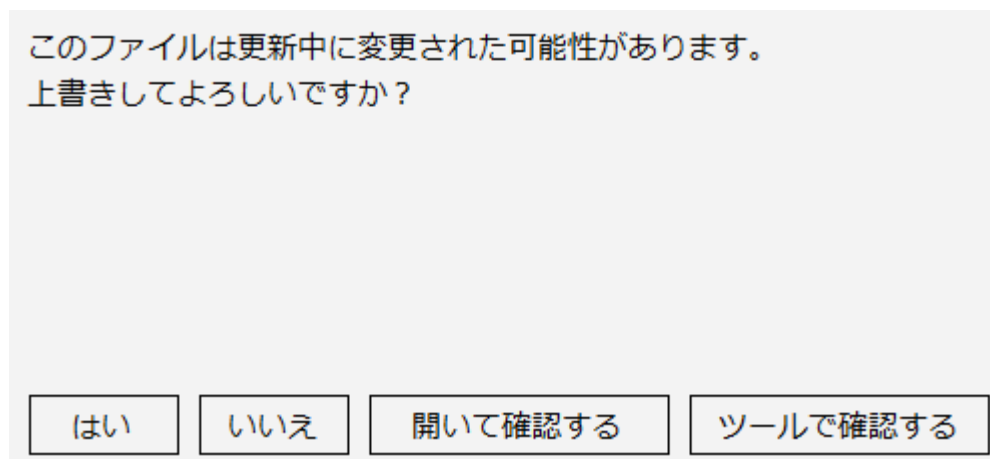
セットアップ

アプリを実行するとタスクトレイに常駐します。
タスクトレイのアイコンをクリックして画面を開き、各種設定を実施してください。
設定後は最小化すると、タスクトレイに常駐して動作し続けます。

差分比較ツール

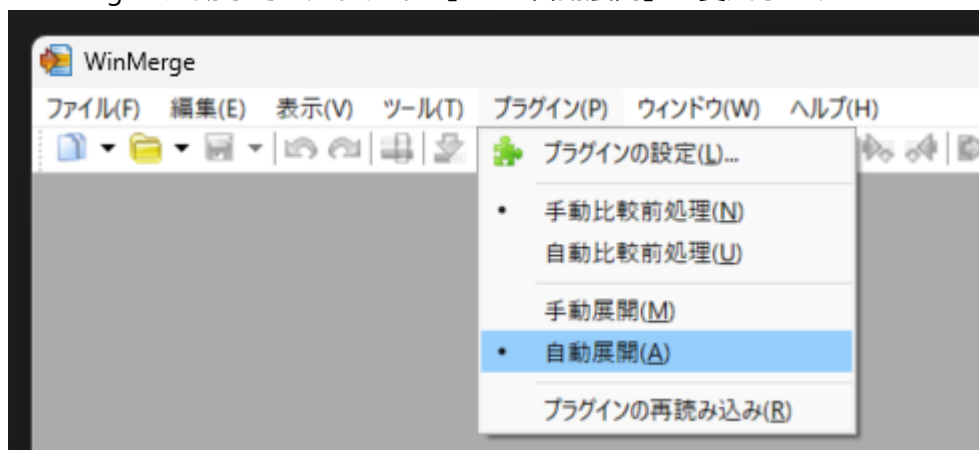
自分がファイルを編集集中に、他の人がそのファイルを更新した場合、差分を「ツールで確認する」ことができます。

なお、単に「開いて確認する」ことも可能なので、ツールを使わずOfficeの「ファイルの比較」機能も利用できます。



ここでは例として、差分比較ツールに「WinMerge」を使う方法を解説します。

1. [公式サイト](#)から、WinMergeをインストールします。
2. WinMergeを起動して「プラグイン」を「自動展開」に変更します。



3. 本アプリを再起動します。

差分比較ツールは[方眼Diff](#)等、WinMerge以外を使うこともできます。

1. 本アプリと同じフォルダにある「appSettings.json」をメモ帳等で開きます。
2. ExcelDiffToolPath、WordDiffToolPath、PowerPointDiffToolPathを適切なパスに書き換えます。
3. 本アプリを再起動します。

Officeアプリの場所

本アプリは以下どちらかにExcel、Word、PowerPointがインストールされている前提で動作します。

- C:\Program Files\Microsoft Office\root\Office16
- C:\Program Files (x86)\Microsoft Office\root\Office16

それ以外の場所にインストールされている場合、Excel、Word、PowerPointの場所を指定します。

[LibreOffice](#)等を使用している場合も、同様に場所を指定してください。

1. 本アプリと同じフォルダにある「appSettings.json」をメモ帳等で開きます。
2. ExcelPath、WordPath、PowerPointPathを適切なパスに書き換えます。
3. 本アプリを再起動します。

アンインストール

Windowsの設定からアンインストールします。

また以下のフォルダを必要に応じて削除します。

%LOCALAPPDATA%\PowerCacheOffice

上記フォルダにはキャッシュと、本アプリの設定が保存されています。

アンインストール後に再インストールする場合は、削除しないでください。

ライセンス

本アプリは、[MIT ライセンス](#)で提供されます。

連絡先

本アプリに関するご連絡は、[こちら](#)までお願いいたします。